

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

中等教育教員養成課程
教科名：音 楽

1. 教科の特色・目的

中等学校（中学校・高等学校）での多様な音楽的諸課題に対応する力を養い、学校教育を担うことのできる豊かな教養、音楽に関する幅広い専門的な知識と音楽実技、高い教育実践力を兼ね備えた人間性豊かな音楽教育教員の養成を目指しています。

2. 専門教育の内容

本専攻では、音楽実技（ピアノ・声楽等）音楽理論及び作曲・音楽科教育の三つの領域を学び、高い専門技能・知識を身に付けます。

音楽実技は、中等学校現場で実技指導ができる実践力を習得します。

・ピアノ実技では、歌唱共通教材及び合唱指導等で必要とされる技術を、様々なピアノ作品を通じて習得し、音楽実践力を養います。

・声楽実技では、歌唱共通教材及び合唱の発声・音楽表現指導ができる技術を、様々な声楽作品を通じて習得し、音楽実践力を養います。

・音楽理論及び作曲では、学校現場で必要とされる音楽史・日本の伝統音楽及び諸民族の音楽、創作について指導できる知識を習得し、音楽実践力を養います。

・音楽科教育では、学習指導要領を理解したり、授業参観、模擬授業等を通じて、音楽科の授業設計や実践をおこなうために必要とされる基礎的な資質・能力を養います。

3. 主な授業科目

ソルフェージュⅠ，声楽Ⅰ，ピアノⅠ，指揮法，音楽理論基礎，作曲法Ⅰ，
伝統声楽，邦楽器，音楽科教育研究Ⅰ，音楽科教育研究Ⅱ

これらの授業科目受講期間中は、毎日90分程度の予習・復習が必要です。

4. 本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

2. で示した内容を踏まえて、音楽を免許教科として選択するためには、以下に示すように、中等教育教員養成課程音楽専攻の入試課題に準じた音楽的知識や実技に関する学習経験を有していることが必須の条件となります。

【音楽理論】

○ 音楽理論（楽典）に関しては、中学校及び高等学校の教科書で取り上げられている音楽史や日本の伝統音楽及び諸民族の音楽について、その基礎知識を理解していること、また楽典のテキスト「楽典-理論と実習」（石桁真礼生、他／音楽之友社）を通読し、その内容を習得している必要があります。

【音楽実技（ピアノ及び声楽）】

○ ピアノに関しては、大学入学後の授業を受講するに際して必要なピアノ演奏法について、ピアノ専門の指導者のもとで一定期間【8年以上】の学習経験があること、また中等教育教員養成課程音楽専攻の入試課題に準ずる下記に示したピアノ作品を学習し、演奏している必要があります。

「ベートーヴェンのピアノ・ソナタから5曲以上」

第5番 op.10 no.1，第7番 op.10 no.3，第11番 op.22 を含むこと。

もしくは、これに準ずるソナタを含むこと。

- 声楽に関しては、大学入学後の授業を受講するに際して必要な発声法を、声楽専門の指導者のもとで一定期間【2年】の学習経験があること、また中等教育教員養成課程音楽専攻の入試課題に準ずる下記に示した声楽作品を学習し、演奏している必要があります。

「イタリア歌曲集第1巻（全音楽譜出版社版）」の中で、下記の声楽作品の演奏ができること。

- ・スカルラッティ作曲：Sento nel core
- ・スカルラッティ作曲：Se tu della mia morte
- ・ガスパリーニ 作曲：Caro laccio
- ・作曲者不詳 : Sebben, crudele
- ・パリゾッティ 作曲：Se tu m'ami
- ・ジョルダーニ 作曲：Caro mio ben

「日本歌曲名歌集【原調版】（音楽之友社版）」の中で、下記の声楽作品の演奏ができること。

- ・瀧 廉太郎 作曲：花
- ・瀧 廉太郎 作曲：荒城の月
- ・山田 耕筰 作曲：かやの木山の
- ・信時 潔 作曲：北秋の
- ・成田 為三 作曲：浜辺の歌
- ・團 伊玖磨 作曲：花の街

「コールユーブンゲン(大阪開成館版)」の中で、第39章No. 85までの課題内容を理解し、演奏ができること。

5. 本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

- 音楽に関する科目を履修していること。
- 音楽活動経験があること。

6. その他（提出が必要な書類等）

音楽活動歴（コンクール受賞等）を示す資料があれば、希望免許教科調査票とともに提出して下さい。